

CORR. WO 98/42695

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公表特許公報 (A)

(11) 特許出願公表番号

特表2001-518927

(P2001-518927A)

(43) 公表日 平成13年10月16日 (2001.10.16)

(51) Int.Cl. ¹	識別記号	P I	フット (参考)
C 07 D 311/92	1 0 1	C 07 D 311/92	1 0 1
311/78		311/78	
409/04		409/04	
493/04	1 0 1	493/04	1 0 1 A
495/04	1 0 1	495/04	1 0 1
審査請求 未請求 予備審査請求 有 (全 24 頁) 最終頁に続く			
(21) 出願番号	特願平10-545247	(71) 出願人	ジェームス・ロビンソン・リミテッド
(86) (22) 出願日	平成10年3月25日 (1998.3.25)		イギリス国、エイチディー・1・6 ビーユ
(85) 翻訳文提出日	平成11年9月27日 (1999.9.27)		ー、フッターズフィールド、ビー・オー・
(86) 国際出願番号	P C T / G B 9 8 / 0 0 9 0 5		ボックス 83、ヒルハウス・レーン
(87) 国際公開番号	W O 9 8 / 4 2 6 9 5	(72) 発明者	クラーク、デビット・アラン
(87) 国際公開日	平成10年10月1日 (1998.10.1)		イギリス国、エイチディー・6・3 エックス
(31) 優先権主張番号	9 7 0 6 2 0 3 . 8		ディー、ブリッグハウス、ラストリック、
(32) 優先日	平成9年3月25日 (1997.3.25)		ウェントウォース・コート 23
(33) 優先権主張国	イギリス (GB)	(72) 発明者	ヘロン、バーナード・マーク
(81) 指定国	EP (AT, BE, CH, DE, DK, ES, FI, FR, GB, GR, IE, IT, L U, MC, NL, PT, SE), GB, JP, US		イギリス国、エイチユー・15・1 エービー、
			ヨークシャー、イースト・ライディング、
			ブロー、ウェルトン・ロード 83
		(74) 代理人	弁理士 鈴江 武彦 (外4名)
			最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 強い着色のフォトクロミックな2H-ナフト [1, 2-b] ピランおよび複素環ピラン

(57) 【要約】

一般式 (I) (式中、R¹およびR²の一方または両方は4-アミノアリール基であり；R³は直鎖または分岐C₁-C₁₀アルキル、C₁-C₃₀シクロアルキル、C₃-C₃₀ビスシクロアルキル、C₁-C₃₀ポリシクロアルキル、直鎖または分岐C₁-C₁₀ハロアルキル、直鎖または分岐C₁-C₁₀パーハロアルキル、直鎖または分岐C₁-C₁₀パーハロアルケニル、直鎖または分岐C₁-C₁₀アルケニル、C₁-C₁₀アルキニル、直鎖または分岐C₁-C₁₀アルコキシ、直鎖または分岐C₁-C₁₀アルキルチオ、直鎖または分岐C₁-C₁₀アルコキシ (直鎖または分岐C₂-C₁₀アルキル)、直鎖または分岐C₁-C₁₀ヒドロキシアルキル、直鎖または分岐C₁-C₁₀アミノアルキル、アリール、フェニル、ヘテロアリール、ハロゲン、ニトリル、ニトロ、アミノ、直鎖または分岐C₂-C₃₀アルコキシカルボニル、ヒドロキシル、ホルミル、アセ

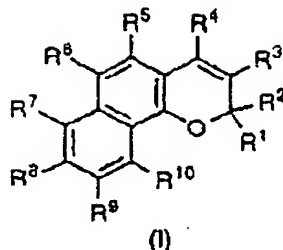
チル、アミド、C₁-C₃₀アルキルアミド、C₁-C₃₀ジアルキルアミド、アロイル、ベンゾイル、アルキルC₁-C₃₀アミノ、ジアルキルC₁-C₃₀アミノ、アリールアミノ、ジアリールアミノ、アリールC₁-C₃₀アルキルアミノおよび環状アミノ基、アリールスルフィニル、アリールスルファニル、アリールスルホニル、直鎖または分岐C₂-C₃₀アルキルスルホニル、P (O) (O-C₂-C₁₀アルキル) から選択されるか、またはアルケニル基 (II) (式中、R¹¹および/またはR¹²および/またはR¹³は水素またはR⁴の定義と同じである) であり、R²、R³およびR⁴-R¹⁰は各々水素またはR¹、R²またはR³の定義と同じである。) で表されるナフト [1, 2-b] ピラン。この化合物はポリマーホスト材料、例えばプラスチックまたはガラスと組み合わせてサングラスレンズ、眼科レンズまたは窓を作ることができる。

(2)

特表2001-518927

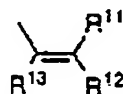
【特許請求の範囲】

1. 一般式 (I)



(式中、R¹およびR²の一方または両方は4-アミノアリール基であり、

R³は直鎖または分岐C₁–C₁₀アルキル、C₁–C₂₀シクロアルキル、C₂–C₂₀ビスシクロアルキル、C₁–C₂₀ポリシクロアルキル、直鎖または分岐C₁–C₁₀ハロアルキル、直鎖または分岐C₁–C₁₀パーハロアルキル、直鎖または分岐C₁–C₁₀パーハロアルケニル、直鎖または分岐C₂–C₁₀アルケニル、C₁–C₁₀アルキニル、直鎖または分岐C₁–C₁₀アルコキシ、直鎖または分岐C₁–C₁₀アルキルチオ、直鎖または分岐C₁–C₁₀アルコキシ（直鎖または分岐C₁–C₁₀アルキル）、直鎖または分岐C₁–C₁₀ヒドロキシアルキル、直鎖または分岐C₁–C₁₀アミノアルキル、アリール、フェニル、ヘテロアリール、ハロゲン、ニトリル、ニトロ、アミノ、直鎖または分岐C₂–C₂₀アルコキシカルボニル、ヒドロキシル、ホルミル、アセチル、アミド、C₁–C₅アルキルアミド、C₁–C₅ジアルキルアミド、アロイル、ベンゾイル、アルキルC₂–C₅アミノ、ジアルキルC₁–C₅アミノ、アリールアミノ、ジアリールアミノ、アリールC₁–C₅アルキルアミノおよび環状アミノ基、アリールスルフィニル、アリールスルファニル、アリールスルホニル、直鎖または分岐C₂–C₁₀アルキルスルホニル、P(O)(O–C₁–C₁₀アルキル)₂から選択されるか、または下記一般式のアルケニル基であり、



(3)

特表2001-518927

(式中、 R^{11} および/または R^{12} および/または R^{13} は水素、または R^3 の定義と同じである)

R^1 、 R^6 および $R^6 - R^{10}$ は各々水素または R^1 、 R^2 または R^3 の定義と同じである。)

で表されることを特徴とするナフト [1, 2-b] ピラン。

2. アミノ基が、アルキル $C_1 - C_5$ アミノ、ジアルキル $C_1 - C_{10}$ アミノ、アリールアミノ、ジアリールアミノ、アリール $C_1 - C_{10}$ アルキルアミノまたは環状アミノ基であることを特徴とする請求項1記載のナフト [1, 2-b] ピラン。

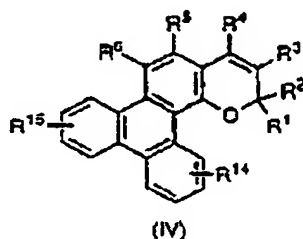
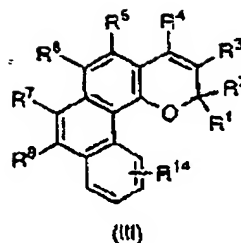
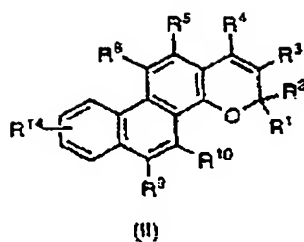
3. 4-アミノアリール基が、特定したアミノ基に加えて、いずれかの残った位置において、さらに、水素、 $C_1 - C_5$ アルキル、 $C_1 - C_5$ ハロアルキル、 $C_1 - C_5$ パーハロアルキル、 $C_1 - C_5$ アルコキシ、 $C_1 - C_5$ アルキルチオ、 $C_1 - C_5$ ヒドロキシアルキル、 $C_1 - C_5$ アルコキシ $C_1 - C_5$ アルキル、 $C_1 - C_5$ アミノアルキル、ハロゲン、 $C_1 - C_5$ アルコキシカルボニル、ホルミル、ニトリル、カルボキシル、アセチル、アミノ、アルキル $C_1 - C_5$ アミノ、ジアルキル $C_1 - C_5$ アミノ、アリールアミノ、ジアリールアミノ、アリール $C_1 - C_5$ アルキルアミノまたは環状アミノ基で置換されていることを特徴とする請求項1または2記載のナフト [1, 2-b] ピラン。

4. 環状アミノ基が、アジリジノ、ピロリジノ、ピペリジノ、モルホリノ、チオモルホリノ、インドリノ、ピペラジノ、 $C_1 - C_5$ N-アルキルピペラジノまたはN-アリールピペラジノであることを特徴とする請求項1、2または3記載のナフト [1, 2-b] ピラン。

5. 一般式II、IIIまたはIV

(4)

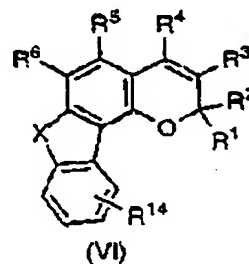
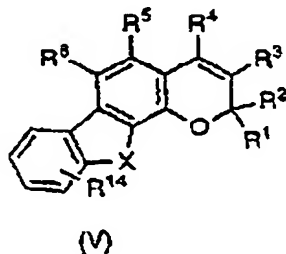
特表2001-518927



(式中、 R^{14} および R^{15} は R^3 、 R^4 、 R^6 – R^{10} の定義と同じである。)

で表されることを特徴とする請求項1、2、3または4記載のナフト [1, 2 – b] ピラン。

6. 一般式VまたはVI



(式中、XはO、S、SO、SO₂、Se、NH、N-直鎖または分岐C₁–C₁₀アルキル、N-アリール、N-ヘテロアリール、N-直鎖または分岐C₁–C

₁₀ハロアルキル、N-直鎖または分岐C₁–C₁₀パーハロアルキル、N-直鎖または分岐C₁–C₁₀ヒドロキシアルキル、N-直鎖または分岐C₁–C₁₀アルコキシアルキル、ベンジル、置換ベンジル、トシルから選択される。)

で表されることを特徴とする請求項5記載のナフト [1, 2 – b] ピラン。

(5)

特表2001-518927

7. R^1 が4-モルホリノフェニル、4-ピペリジノフェニル、4-ジメチルアミノフェニルまたは4-ピロリジノフェニル、 R^2 がメトキシカルボニルであることを特徴とする請求項1ないし6いずれか記載のナフト〔1, 2-b〕ピラン。

8. R^1 および R^2 が各々4-ピロリジノフェニル、 R^3 がメトキシカルボニルであることを特徴とする請求項1ないし6いずれか記載のナフト〔1, 2-b〕ピラン。

9. R^1 が4-モルホリノフェニル、 R^2 が4-メトキシフェニル、 R^3 がメトキシカルボニルであることを特徴とする請求項1ないし6いずれか記載のナフト〔1, 2-b〕ピラン。

10. R^1 が4-モルホリノフェニル、 R^2 が2-チエニル、 R^3 がメトキシカルボニルであることを特徴とする請求項1ないし6いずれか記載のナフト〔1, 2-b〕ピラン。

11. 請求項1ないし10いずれか記載のナフト〔1, 2-b〕ピランを含む有することを特徴とするポリマーホスト材料。

12. 材料がプラスチックまたはガラスであることを特徴とする請求項11記載のポリマーホスト材料。

13. 請求項11または12記載のポリマーホスト材料からなることを特徴とする窓、光学ファイバー、眼科レンズまたはサングラスレンズ。

(5)

特表2001-518927

【発明の詳細な説明】

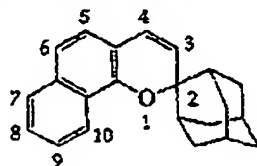
強い着色のフォトクロミックな2H-ナフト[1, 2-b]ピラン

および複素環ピラン

本発明はある種の新規なフォトクロミックなピラン誘導体およびその用途に関する。

フォトクロミズムはよく知られた物理現象であり、ある種の化合物で観察される。この現象の詳細な議論は、「フォトクロミズム：分子および系」有機化学研究40、H. ディールおよびH. ボウアス-ローレント編、エルセビアー、1990に見出すことができる。

2H-ナフト[1, 2-b]ピラン系は、たとえば米国特許3, 567, 605号および米国特許4, 826, 977号に記載されているように、フォトクロミック効果を発揮し得ることが知られている。米国特許3, 567, 605号は室温で数時間着色したままである2H-ナフト[1, 2-b]ピランの例を提供し、米国特許4, 826, 977号は、他の2H-[1]ベンゾピランおよび異性体のナフトピラン系の中で、一連の黄色/橙色着色の2位にスピロアダマンタン基を含む2H-ナフト[1, 2-b]ピランを記載している。2H-ナフト[1, 2-b]ピラン系（この例ではC-2においてスピロアダマンタン基で置換されている）の基本的な構造単位を下記に示す。



一連の紫色/青色着色の2-(4-アミノフェニル)-2-アルキル-2H-ナフト[1, 2-b]ピランも米国特許4, 818, 096号に記載されており、欧州特許0, 250, 193は酸素ヘテロ原子に隣接する炭素原子に1つまたは2つのアミノフェニル置換基を持つ一連のフォトクロミックなナフト[1, 2-b]および[2, 1-b]ピランを記載している。この特許においては、6位以

外の5-10位の環位置での置換は、化合物のフォトクロミック性にほとんど影

(7)

特表2001-518927

替しないことが述べられている。

他の2H-[1]ベンゾピランおよび異性体のナフトピランの中で、2位の置換基の1つとしてシクロプロピル基を有する一連のフォトクロミックな2H-ナフト[1, 2-b]ピランがWO92/01959に記載されている。化合物2-シクロプロピル-2-p-メトキシフェニル-5-メチル-2H-ナフト[1, 2-b]ピランおよびいくつかの他の類似体は特別な新しい関心を引くものであることも述べられているが、このような関心を立証する根拠または5-メチル基の何らかの重要性に関する根拠はまったく示されていない。

米国特許5,066,818(1991)には「化合物2,2-ジフェニル-2H-ナフト[1, 2-b]ピランも室温で近紫外光に露光すると着色するが、相応な時間のうちには脱色しない。メタおよびパラ位でのフェニル置換基の置換はこれらの化合物の脱色速度にほとんど影響しない。」と述べられている。

異性体の3,3-ジアリール-3H-ナフト[2, 1-b]ピランで示されるフォトクロミック性との比較で、光照射下で達成される2,2-ジアリール-2H-ナフト[1, 2-b]ピランの非常に高い光学濃度と、照射光源除去時のそれらの遅い付随退色(脱色)が、B.ファン・ゲメルトラ(Mol. Cryst. Liq. Cryst., 1994, 246, 67)により最近になって言及されている。2,2-ジアリール-2H-ナフト[1, 2-b]ピランの比較的遅い付随退色は、開環した(着色した)キノイド/双性イオン形において立体的な込み合いがないことによって合理的に説明されている。このような立体的な込み合いは、3,3-ジアリール-3H-ナフト[2, 1-b]ピランの開環形には存在すると考えられており、それらの比較的速い退色の原因を示している。

ビルキントン・ブラザース・リミテッドも、研究情報においてフォトクロミック材料の退色に関して述べている。2つの構造的に類似の速く着色するフォトクロミックな2,2-ジアリール-2H-ナフト[1, 2-b]ピラン、すなわち2,2-ビス(4-メトキシフェニル)-5,6-ジメチル-2H-ナフト[1, 2-b]ピランおよび2-(4-メトキシフェニル)-2-(4-トリフルオロメチルフェニル)-5,6-ジメチル-2H-ナフト[1, 2-b]ピランが記

(8)

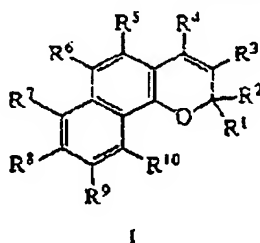
特表2001-518927

載されており、これらはメチル置換されていない類似体と比較して著しく向上した付随退色を示している。これらの高い退色速度は5および6位でのメチル基の合わさった存在に起因しており、これらのメチル基は閉環した（着色した）キノイド／双性イオン形に立体的な圧力を及ぼし、無着色のナフトピラン系への閉環を促進するといわれている。しかし、ビルキントン p 1 c によって記載された、5および6位の両方に置換基を有するこれらの高速退色材料は作るのが困難であり、長い多段プロセスを要し、このことはこれらを商業的に興味のないものになっている。このようにこれらの2, 2-ジアリール化合物において速い退色を達成するために5および6位に2つの置換基を用いることは、製造上の複雑性という不都合がある。

2つの最近の米国特許5, 458, 814号および5, 514, 817号は、一連の高速退色する強い着色の5-置換または5, 6-ジ置換の2, 2-ジアリール-2H-ナフト[1, 2-b]ピランおよびフェナンストピランの合成を記載している。

我々は、これらの公知のフォトクロミック化合物を研究し、強い発色のためには、2-(アミノアリール)-2-アリールまたは2, 2-ビス(アミノアリール)置換基を有する化合物が好ましいことを見出した。また、これらの2, 2-ジアリール-2H-ナフト[1, 2-b]ピランにおける5-置換基の存在は、光照射により生じた赤色または橙色の速い退色を確実にする。

本発明によれば、式Iのフォトクロミック化合物が提供される。



上記図式Iにおいて、R¹およびR²は各々非置換、モノ置換、ジ置換またはポリ置換のアリール基、すなわちフェニルおよびナフチル、好ましくはモノ置換またはジ置換のフェニルおよびナフチルから選択される。さらに、R¹およびまた

(9)

特表2001-518927

は R^2 は以下のヘテロアリール基、すなわちチエニル、ベンゾ [b] チエニル、フリル、ベンゾ [b] フリル、ピリル、インドリルから選択することもできる。

R^1 および R^2 を表すアリールおよびヘテロアリール基に対する置換基は、アミノ、アルキル C_1-C_5 アミノ、ジアルキル C_1-C_5 アミノ、アリールアミノ、アリールアルキル C_1-C_5 アミノ、ジアリールアミノおよび環状アミノ基（例えば、アジリジノ、ピロリジノ、ピペリジノ、モルホリノ、チオモルホリノ、インドリノ、ピペラジノ、 C_1-C_5 N-アルキルピペラジノ）が挙げられる。特定したアミノ基に加えて、いずれかの残った位置における他の置換基は、水素、 C_1-C_5 アルキル、 C_1-C_5 ハロアルキル、 C_1-C_5 アルコキシ、 C_1-C_5 アルコキシ（ C_1-C_5 アルキル）、アミノ- C_1-C_5 アルキル、ヒドロキシ- C_1-C_5 アルキル、ハロゲンを含んでいてもよい。

フェニル、アリールおよびヘテロアリール環の置換基は、o-、m-またはp-位に位置することができる。代表的には、各々のフェニル基は3以下の置換基を含む。

R^1 および R^2 は水素である。

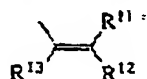
R^3 は C_1-C_{10} アルキル、 C_1-C_{10} ハロアルキル、 C_1-C_{10} パーフルオロアルキル、 C_1-C_5 パーフルオロアルケニル、 C_1-C_5 アルケニル、 C_1-C_5 アルキニル、 C_1-C_{10} アルコキシ、 C_1-C_{10} パーフルオロアルコキシ、 C_1-C_5 アルコキシ（ C_2-C_5 アルキル）、 C_2-C_5 ヒドロキシアルキル、ハロゲン、ニトリル、ニトロ、アミノ、 C_2-C_5 アルキルアミノ、 C_1-C_5 ジアルキルアミノ、環状アミノ（例えば、アジリジノ、ピロリジノ、ピペリジノ、モルホリノ、チオモルホリノ、インドリノ、ピペラジノ、 C_1-C_5 N-アルキルピペラジノ）、アリールアミノ、ジアリールアミノ、アリール C_2-C_5 アルキルアミノ、 C_1-C_5 オキシアルキル、フェニル、アリール、置換アリール、ナフチル、置換ナフチル、アロイル、置換アロイル、ホルミル、カルボキシル、 C_1-C_{20} アルコキシカルボニル、 C_1-C_5 ハロアルキルオキシカ

ルボニル、アリールオキシカルボニル、置換アリールオキシカルボニルから選択することができる。

(10)

特表2001-518927

R⁷は直下に示されるアルケニル基から選択することもできる。

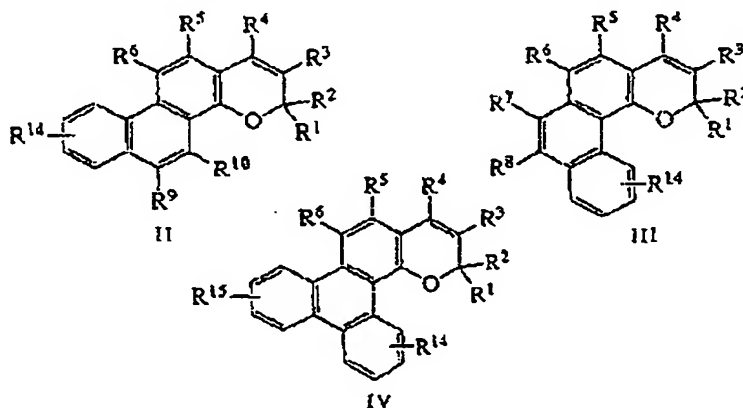


式中、R¹¹およびまたはR¹²およびまたはR¹³は式I中のR¹およびR²について特定された置換基から選択される。これらの置換基に加えて、R¹¹およびR¹²およびR¹³はH、CN、NO₂、CHO、C₁-C₅アルコキシカルボニル、ベンゾイル、およびフェニルスルホニルから選択することもできる。

図式Iにおいて、R⁶、R⁷、R⁸、R⁹およびR¹⁰は、水素および上記のR⁵について特定された基から選択される。

代表的には（必ずというわけではないが）R⁷、R⁸、R⁹およびR¹⁰から選択される2つまたは3つの基は水素である。

式Iの2H-ナフト[1, 2, -b]ピラン化合物に加えて、本発明は一般式IIおよびIIIの異性体のフェナンスロピランならびに一般式IVのベンゾ[1]フェナンスロピランを含む。

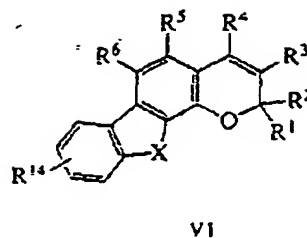
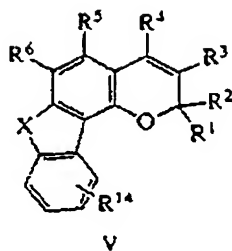


図式II、IIIおよびIVにおいて、R¹からR¹³は図式Iについて特定された通りであり、R¹⁴およびR¹⁵はR⁶について特定された置換基から選択することができる。

式Iの2H-ナフト[1, 2, -b]ピラン化合物に加えて、本発明は一般式VおよびVIの異性体の複素環ピランを含む。

(11)

特表2001-518927



図式IVおよびVにおいて、 R^1 から R^{14} は図式Iについて特定された通りであり、ヘテロ原子XはO、S、NH、および例えば C_1-C_{10} アルキル、 C_1-C_{10} ハロアルキル、 C_1-C_{10} パーフルオロアルキル、ベンジル、フェニル、トシル、アミノ C_1-C_3 アルキル、ヒドロキシ C_1-C_3 アルキルで置換されたNから選択することができる。

本発明の新規なピラン化合物によって示されるフォトクロミック性、すなわちその赤色または橙色の着色形態の高い誘導光学濃度および速い脱色は、これらの化合物をポリマーホスト材料中に組み込んで前記ポリマーホスト材料にフォトクロミック性を与えるためのフォトクロミック材料として有用なものにする。本発明のフォトクロミック材料を含むポリマーホスト材料の応用例は、サングラスのレンズおよび眼科レンズ、光学ファイバーおよび乗り物たとえば乗用車の窓（サンルーフを含む）、航空機および船舶および建築用途たとえば家の窓およびフォトクロミックな「ステンドグラス」の窓を含む。

本発明のフォトクロミックなピランは、十分に確立された手順たとえば欧州特許0254020号または米国特許5,066,818号に記載されている手順により「プラスチック」のホスト材料に組み込まれる。

本発明のフォトクロミック材料の高い誘導光学濃度は、ポリマーホスト材料または溶液に有用な程度のフォトクロミズムを与えるために要するフォトクロミック材料の量を大幅に減らして、合成上の労力およびコストをかなり節約することを可能にする。さらに、本発明のフォトクロミック材料を少量だけ使用することは、材料自体の固有の色によりまたはフォトクロミック材料の使用による着色した疲労／劣化生成物の生成により、フォトクロミック材料が脱色状態に与えること

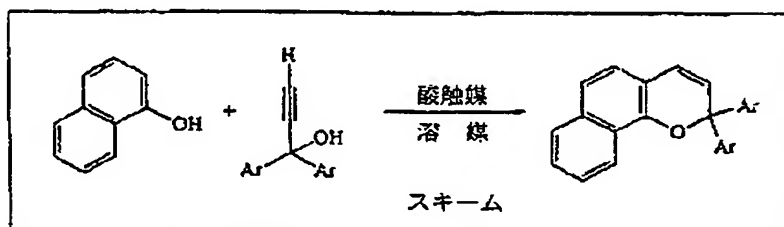
(12)

特表2001-518927

があり得るあらゆる望ましくない着色を結果的に減らすという副次的利点もある。

代表的なホスト材料は、光学的に透明なポリマー材料、例えばポリオール（アリルカーボネート）モノマーのポリマー、ポリアクリレート例えばポリメチルメタクリレート、セルロースアセテート、セルローストリアセテート、セルロースアセテートプロピオネート、セルロースアセテートブチレート、ポリ（ビニルアセテート）、ポリ（ビニルアルコール）、ポリウレタン、ポリカーボネート、ポリエチレンテレフタレート、ポリスチレン、ポリ（トリエチレングリコールジメチルアクリレート）、ポリ（ジエチレングリコールビス（アリルカーボネート））および種々のコポリマー混合物である。

本発明のピラン化合物は、以下の反応スキームに基づく一般的な方法により調製することができる。



この一般的な方法論は、例えば、L. メルリニによる「複素環化学における進歩」、1975、18巻、ページ159、およびR. ガグリールメッティによる「フォトクロミズム：分子および系」有機化学研究40、8章、H. ディールおよびH. ボウアスローレント編、エルセビアー、1990、またさらにいくつ

かの特許文献、例えば米国特許5,066,818号：米国特許4,990,287号、WO92/09593およびWO95/05382において詳細に説明されている。上記のスキームに示されるプロパルギルアルコールの合成は、公知の方法、例えばT. F. ラトレッジ「アセチレン系化合物」、ラインホルト、ニューヨーク、1968で得られる。1-ナフトールおよび関連するヒドロキシ化合物は、市販品を入手できるかまたは公知の合成法もしくはこのような方法から

(13)

特表2001-518927

派生した方法により得られる。1-ナフトールおよび関連するヒドロキシ化合物またはこれらの前駆体のいくつかは、化学文献に記載されている。例えば、エチル 1-アセトキシジベンゾチオフェン-3-カルボキシレート (S. グロノビッツら、*Acta. Pharm. Suec.*, 1978, 15, 337 参照)、および3-ヒドロキシプロピル-1-ナフトール (R. F. フランクら、*J. Chem. Soc., Chem. Commun.*, 1984, 761 参照) である。1-ナフトールを調製するためにストップ縮合を用いることも記載されている (有機反応 1951, 6, 1 参照)。酸触媒は、酸性アルミナ (ブロックマン 1)、酢酸、トリフルオロ酢酸、シリカ、粘土 (例えばモンモリロナイト、トンシル) または酸性交換樹脂から選択することができる。

反応に頻繁に用いられる有機溶媒は、ベンゼン、トルエン、キシレンおよび比較的高沸点のアルカンを含む。

以下の例は本発明を説明するものであるが本発明を限定するものではない。

例 1: メチル 9-メトキシ-2-フェニル-2-(2-チエニル)-2H-ナフト [1, 2-b] ピラン-5-カルボキシレート

(a) エチル 4-アセトキシ-6-メトキシ-2-ナフトニート

新たに蒸留した p-アニスアルデヒド (20 g, 146.9 mmol) およびコハク酸ジエチル (38.4 g, 220.3 mmol) を無水エタノール (50 cm³) に溶解した溶液を、激しく攪拌したナトリウムエトキシド (ナトリウム 6.75 g, 293.8 mmol から得られた) を無水エタノール (450 cm³) に溶解した温かい (約 40-50°C) 溶液に N₂ 中で 45 分かけて滴下して加えた。添加終了後に溶液を 4 時間還流し、その後室温まで冷却した。

この反応混合物を最初の体積の約 1/5 に減らし、得られた粘稠な油を水 (7

00 cm³) で希釈し、濃 HCl で注意深く酸性化し、得られた二相混合物を酢酸エチル (5 × 100 cm³) で抽出した。合わせた EtOAc 溶液を飽和 NaHCO₃ 水溶液 (6 × 100 cm³) で抽出した。合わせた NaHCO₃ 水溶液を濃 HCl で注意深く酸性化し、得られた二相混合物を酢酸エチル (4 × 100 cm³) で抽出した。合わせた EtOAc 溶液を乾燥 (Na₂SO₄) し、留去して

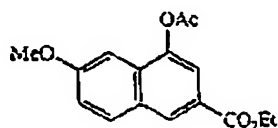
(14)

特表2001-518927

黄色の流動性のある油を得た。

前記の黄色の油および無水酢酸ナトリウム (12.05 g、146.9 mmol) を無水酢酸 (180 cm³) に溶解した溶液を3時間還流した。この溶液を室温まで冷却した後、水 (2000 cm³) で希釈し、1.5時間攪拌した。得られた淡褐色の固体を真空ろ過により収集し、水 (約500 cm³) でよく洗い、風乾した。

この固体をEtOAc/ヘキサンおよびノリット (活性炭) から再結晶し、エチル 4-アセトキシ-6-メトキシ-2-ナフトエートを得た (収量=21.2 g、理論収量=42.35 g、50%、融点=103.5-104.5℃ (補正せず))。



(b) メチル 4-ヒドロキシ-6-メトキシ-2-ナフトエート

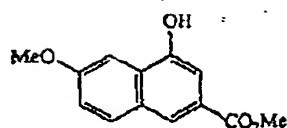
エチル 4-アセトキシ-6-メトキシ-2-ナフトエート (3.0 g、10.4 mmol) および水酸化ナトリウム (2.5 g、62.5 mmol) を水 (60 cm³) およびエタノール (15 cm³) に溶解した溶液を80-90℃に3時間保持した。冷却した溶液を水 (400 cm³) に注ぎ、濃HClで注意深く酸性化した。得られた懸濁液をEtOAc (5×75 cm³) で抽出した。合わせた抽出物を乾燥 (Na₂SO₄) し、留去して淡褐色の固体を得た。この固体を濃H₂SO₄ (約1 cm³) を含むメタノール (50 cm³) に溶解して4時間還流した。冷却した混合物を水 (500 cm³) で希釈し、EtOAc (4×

50 cm³) で抽出した。合わせた抽出物を飽和NaHCO₃水溶液 (2×100 cm³) および水 (100 cm³) で洗った。乾燥 (Na₂SO₄) したEtOAcの除去により淡褐色の固体を得て、これをEtOAc/ヘキサンから再結晶し、メチル 4-ヒドロキシ-6-メトキシ-2-ナフトエートを得た (収量=1.63 g、理論収量=2.41 g、68%、融点=193-195℃ (補正せず))

(15)

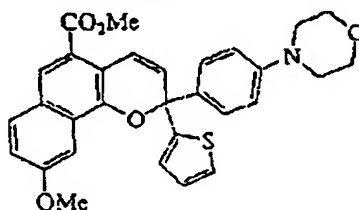
特表2001-518927

)。



(c) メチル 9-メトキシ-2-フェニル-2-(2-チエニル)-2H-ナフト[1,2-b]ピラン-5-カルボキシレート

メチル 4-ヒドロキシ-6-メトキシ-2-ナフトエート (0.45 g、1.8 mmol) および 1-(4-モルホリノフェニル)-1-(2-チエニル)プロプ-2-イン-1-オール (0.55 g、1.8 mmol) を酸性アルミナ (ブロックマン1) (4.0 g) を含有するトルエン (45 cm³) に溶解した溶液を60分間還流した。冷却した溶液をろ過し、アルミナをEtOAc (200 cm³) でよく洗った。溶媒の除去により油を得て、これを室温で保持して固化させた。EtOAc/ヘキサンからの2回の再結晶により、メチル 9-メトキシ-2-フェニル-2-(2-チエニル)-2H-ナフト[1,2-b]ピラン-5-カルボキシレートを得た (収量=0.49 g、理論収量=0.93 g、52%、融点=186-188℃ (補正せず))。

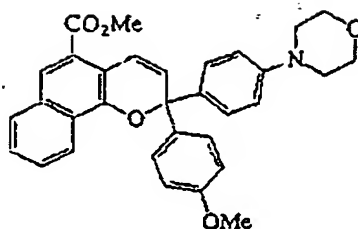


例2：メチル 9-メトキシ-2-(4-モルホリノフェニル)-2-フェニル-2H-ナフト[1,2-b]ピラン-5-カルボキシレート、融点=175-177℃ (補正せず)。この化合物は必要な出発材料を用いて上の例1と同様の手順により得られた。

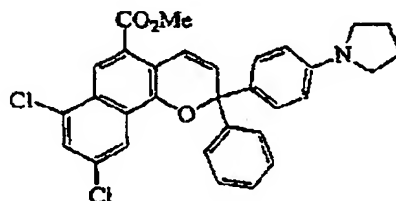
(17)

特表2001-518927

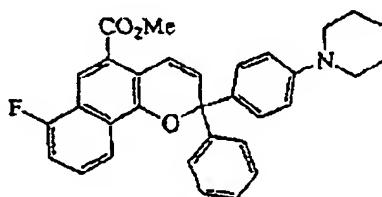
様の手順により得られた。



例 6：メチル 7, 9-ジクロロ-2-(4-ピロリジノフェニル)-2-フェニル-2H-ナフト[1, 2-b]ピラン-5-カルボキシレート、融点=162-165℃(補正せず)。この化合物は必要な出発材料を用いて上の例1と同様の手順により得られた。



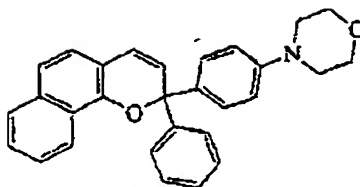
例 7：メチル 7-フルオロ-2-(4-ピペリジノフェニル)-2-フェニル-2H-ナフト[1, 2-b]ピラン-5-カルボキシレート、融点=165-168℃(補正せず)。この化合物は必要な出発材料を用いて上の例1と同様の手順により得られた。



比較例 1：2-(4-モルホリノフェニル)-2-フェニル-2H-ナフト[1, 2-b]ピラン、融点=131-134℃(補正せず)。

(18)

特表2001-518927



比較例 2 : メチル 9-メトキシ-2, 2-ビス (4-メトキシフェニル) -
2H-ナフト [1, 2-b] ピラン-5-カルボキシレート

(a) エチル 4-アセトキシ-6-メトキシ-2-ナフトエート

新たに蒸留した p-アニスアルデヒド (20 g、146.9 mmol) および
コハク酸ジエチル (38.4 g、220.3 mmol) を無水エタノール (50
cm³) に溶解した溶液を、激しく攪拌したナトリウムエトキシド (ナトリウム 6
.75 g、293.8 mmol から得られた) を無水エタノール (450 cm³
) に溶解した温かい (約 40-50℃) 溶液に N₂ 中で 45 分かけて滴下して加
え

た。添加終了後に溶液を 4 時間還流し、その後室温まで冷却した。

この反応混合物を最初の体積の約 1/5 に減らし、得られた粘稠な油を水 (7
00 cm³) で希釈し、濃 HCl で注意深く酸性化し、得られた二相混合物を酢
酸エチル (5×100 cm³) で抽出した。合わせた EtOAc 溶液を飽和 Na
HCO₃ 水溶液 (6×100 cm³) で抽出した。合わせた NaHCO₃ 水溶液を
濃 HCl で注意深く酸性化し、得られた二相混合物を酢酸エチル (4×100 c
m³) で抽出した。合わせた EtOAc 溶液を乾燥 (Na₂SO₄) し、留去して
黄色の流動性のある油を得た。

前記の黄色の油および無水酢酸ナトリウム (12.05 g、146.9 mmol)
を無水酢酸 (180 cm³) に溶解した溶液を 3 時間還流した。この溶液を
室温まで冷却した後、水 (2000 cm³) で希釈し、1.5 時間攪拌した。得
られた淡褐色の固体を真空ろ過により収集し、水 (約 500 cm³) でよく洗い
、風乾した。

この固体を EtOAc/ヘキサンおよびノリット (活性炭) から再結晶し、エ

(21)

特表2001-518927

【国際調査報告】

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

 International Application No.
 PCT/GB 98/00905

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER IPC 6 C07D311/92 C07D311/78 C07D409/04 G02B5/23		
According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC		
B. FIELDS SEARCHED Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols) IPC 6 C07D G02B		
Documentation searched other than minimum documentation in the extent that such documents are included in the fields searched		
Electronic database consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)		
C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT		
Category *	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	WO 95 16215 A (PPG INDUSTRIES INC) 15 June 1995 see the whole document see in particular examples page 12	1-13
Y	EP 0 250 193 A (PLESSEY CO PLC) 23 December 1987 cited in the application see the whole document see in particular example 9	1-13
Y	WO 96 04576 A (PPG INDUSTRIES INC) 15 February 1996 see the whole document ---	5,7-13
	-/-	
<input checked="" type="checkbox"/> Further documents are listed in the classification of box C. <input checked="" type="checkbox"/> Patent family members are listed in annex.		
* Special categories of cited documents : "A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance "E" earlier document published on or after the international filing date "L" document which may have priority over the invention or which is cited to establish the prior art of the invention "O" document relating to an oral disclosure, use, exhibition or other means "P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed "T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principles or theory underlying the invention "X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone "Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art "Z" document member of the same patent family		
Date of the actual completion of the international search 24 June 1998		Date of mailing of the international search report 17. 07. 98
Name and mailing address of the ISA European Patent Office, P.O. Box 2955 Tel. (+31-70) 340 2040, 7x 30 031 ext. 1 Fax: (+31-70) 340 2010		Authorized officer Steendijk, H

Form PCT/IS2216 Second sheet (July 1992)

(23)

特表2001-518927

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

Information on patent family members

International Application No.

PCT/GB 98/00905

Patent document cited in search report	Publication date	Patent family member(s)	Publication date
WO 9516215 A	15-05-1995	US 5450014 A	17-10-1995
		AU 1265895 A	27-06-1995
		US 5573712 A	12-11-1995
		US 5650098 A	22-07-1997
		US 5651923 A	29-07-1997
EP 0250193 A	23-12-1987	AU 598273 B	21-06-1990
		AU 7441687 A	24-12-1987
		BR 8703053 A	08-03-1988
		CA 1306643 A	25-08-1992
		DE 3787932 D	02-12-1993
		DE 3787932 T	24-02-1994
		GB 2193005 A	27-01-1988
		IN 170758 A	16-05-1992
		JP 63047721 A	29-02-1988
		US 4818096 A	04-04-1989
		ZA 8704317 A	17-12-1987
WO 9604576 A	15-02-1996	US 5514817 A	07-05-1996
		AU 683181 B	30-10-1997
		AU 3211795 A	04-03-1996
		EP 0601750 A	22-10-1997
		JP 10503212 T	24-03-1998
US 5552091 A	03-09-1996	US 5429774 A	04-07-1995
		WO 9420869 A	15-09-1994
		US 5411679 A	02-05-1995
WO 9804937 A	05-02-1998	FR 2751648 A	30-01-1998
		AU 3827097 A	20-02-1998
US 5658500 A	19-08-1997	NONE	

From PCT/GB/98/00905 (filed 1998/05/15)

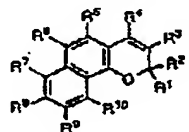
(24)

特表2001-518927

フロントページの続き

(51)Int.Cl.	識別記号	F i	ターミナル (参考)
C 07 D 495/04	1 0 3	C 07 D 495/04	1 0 3
G 02 B 5/23		G 02 B 5/23	
G 02 C 7/10		G 02 C 7/10	
G 03 C 1/73	5 0 3	G 03 C 1/73	5 0 3
// C 09 K 9/02		C 09 K 9/02	B
(72)発明者	ガブット、クリストファー・デビッド		
	イギリス国、ビーアール3・2ワイエス、		
	ランカシャー、プレストン、ノウル・グリ		
	ーン、ニュー・ロウ 7		
(72)発明者	ヘブウォース、ジョン・デビッド		
	イギリス国、ビーアール2・7イーアー		
	ル、ランカシャー、プレストン、フルウッ		
	ド、カーノウスティー・クロース 2		
(72)発明者	パーティングトン、スティーブン・マイケル		
	イギリス国、エイチディー7・4ピージ		
	ー、フッダースフィールド、ゴルカー、ウ		
	ッドロイド 48		
(72)発明者	コーンス、スティーブン・ニーゲル		
	イギリス国、エイチディー1・4ジェイエ		
	ス、フッダースフィールド、バドック、ピ		
	ーチ・ストリート 10		

【要約の続き】



(1)



(II)